

年度評価シート

課名 男女参画・多文化共生課

施設の名称 静岡市女性会館	指定管理者名 特定非営利活動法人 男女共同参画フォーラムしずおか
<p>1 履行状況</p> <p>業務仕様書及び業務計画書に従って適切に履行されている。</p> <p>(1) 男女共同参画推進事業</p> <p>平成30年度は、各国における男女格差を測るジェンダーギャップ指数が149か国中110位と低迷する中、国内における政界等のセクシュアル・ハラスメントや大学入試における男女差別など社会情勢を踏まえ、副館長を2人体制に強化し「女性の就業継続の応援」、「困難を抱える女性のエンパワーメント」、「男性にとっての男女共同参画の推進」の3点を重点目標として指定管理事業に取り組んだ。各事業の詳細は以下のとおりである。</p> <p>① 講座企画運営事業</p> <p>事業計画書に沿って全21講座を実施した。主要講座である第15期アイセル女性カレッジでは、働き続ける女性が自身のキャリアや生き方のステップアップができる講座運営となっており、満足度は100%ととても高くなっている。</p> <p>防災分野における女性の人材育成講座「するが防災女子講座」では、自治会・自主防災会等の地域と密接な駿河区地域総務課と協働して実施し、防災の市担当部署や地域との連携が深まったため、今後葵区・清水区への波及が期待される。</p> <p>また、女性に対する暴力防止のメッセージを込めたダンス「Break the chain」によるキャンペーンは、ダンスフェスへ規模を拡大することにより、多くの出演者や来場者に参加してもらうことができ、啓発効果の高いものとなっている。</p> <p>男性向けの講座としては、介護や話の聞き方をテーマとして具体的な悩みを解消する講座を実施したことにより、満足度も高いものとなっている。</p> <p>さらに、高齢化が進む中、性別役割分担意識に基づく生きづらさ解消に向けた高齢期に関する講座の実施や、SDGsウィークとの連携など、時代の変化に対応した取組がなされており、新規利用者の増加や講座内容等、事業の広がりが期待できる。</p> <p>② 相談事業</p> <p>相談者は30～50代で全体の約7割を占め、相談内容を見ると「家族・親族」「メンタルヘルス」「離婚」という順で上位3位を占めている。次いで件数の多いDV相談については、DV相談の専門家によるスーパービジョンを実施し、適切に対応できるよう取り組んでいる。一方、相談記録の効率化を図るため入力システムを導入し、相談員自身の負担や健康にも配慮した相談体制が整えられている。</p> <p>また、セクシュアリティや性別違和などの悩みに対応するため、職員及び相談員を専門研修に派遣し、試験的に電話相談及び交流会を実施し、次年度への展開が期待される。</p> <p>③ 情報収集・発信事業</p>	

幅広い年齢層を対象に活動していることを意識し、図書コーナーの貸出や各種展示物、SNSを活用した情報発信を行っている。

また、「アイセルの風」をリニューアルし、手に取ってもらいやすいようページ数を減らし、カラー印刷及び増刷することにより、多くの方に行きわたる工夫を行っている。

④ Jo-Shizu人材バンク活用事業

メンター登録者を29人増やし、年間新規ユーザー数（サイトを閲覧した人の実人数）は3,509人となり、過去最大となった。人材バンク3周年記念の交流会も実施してメンター同士の連携を深めるとともに、メンターバンク活用のためのコーディネート事業も行っている。

⑤ 団体活動支援事業

平成30年度は、引き続き55の男女共同参画団体の支援と1の育成団体の支援を行った。

⑥ その他事業

中高生の職場体験や大学生のインターンシップとして、中学生8名、高校生1名、大学生5名の希望者全員を受け入れ、若い世代への男女共同参画の理解を促進する良い機会になっている。

また、SDGsウィークにおける連携講座の実施や事業PR、防災講座への協力など、多方面との連携が図られつつある。

(2) 施設管理・運営

施設の管理・運営について、複合型施設となる葵生学習センターと連絡調整を行いながら、適切に維持管理を行っている。施設・備品の修繕について、経費節減に努め当初予定していなかったエアコンの取替修繕が可能となるなど工夫をしている。

利用者数については98,536人となり、昨年度より1,235人減少し、貸室の利用率は55.7%から55.3%と微減になっている。

(3) 組織運営

休館日が少ないことや開館時間が長いこと、不規則なローテーション勤務となっていることから、職員の働き方や健康面に配慮した運営体制を検討する必要がある。

また、多様化するニーズに対応するため職員の知識やスキルを高める内部研修や、国立女性教育会館等への外部研修を積極的に取り入れている。

さらに、市と協議を重ね、「地震等大規模災害対応マニュアル」等の作成を行った。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

女性会館では、利用者からの意見・要望を吸い上げるため、定期的に利用者トークサロンを実施しており、複合型施設である葵生涯学習センターと情報共有しながら、意見・要望を反映した施設管理を行っている。平成30年度は自治会やダンスフェス参加者に焦点を当て、利用者トークサロンを通じて意見・要望を聴取し、適切に対応した。

<具体的な意見・要望とその対応状況>

意見等：連合自主防災組織と単位自主防災組織の連絡が不十分。

対応：葵区地域総務課の協力を得て、自主防災会の課題や女性登用状況に関するアンケート調査を実施する。また、駿河区・清水区においてもアンケート調査を実施できるよう、各区地域総務課へ協力を依頼する。

意見等：パープルリボンダンスフェスの運営について参加者から様々な意見を頂いた。
対 応：頂いた意見を参考に、次年度フェスの企画・運営に改良を加える。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

講座受講者に対して実施した講座満足度アンケートでは、96.5%が満足かまあ満足と回答しており、協定書で定めた目標値（94%以上）を上回る結果となった。

(2) 利用者アンケート

目 的：食工場の維持管理について調査

対象者：食工場利用者 13名

食工場の利用頻度は、毎月1回程度の利用が約6割を占め、活動ごとの参加人数は6～10人が約3割ともっとも多い。揚げ油の処理方法やガスオーブンの利用状況など適切な維持管理に向けた意見を聴取できたほか、災害発生時における各団体の対応状況を把握した。

(3) 市民アンケート

目 的：女性会館の認知度等の把握

対象者：静岡市実施の「男女共同参画に関する市民意識調査」回答者 889名

本調査において、「女性会館の認知・利用状況」「女性会館に期待する役割」を確認している。「女性会館の認知度」は61.9%であった。そのうち「利用したことがある」が24.2%、「知っているが利用したことはない」が37.7%となっている。女性の認知・利用状況は男性に比べて総じて高く、20代以下の認知・利用状況が36.2%と低いことから、若年層への周知に力を入れていく必要がある。

また、「女性会館に期待する役割」としては、「多様な生き方を応援する各種セミナーの開催」「女性のための相談」「働くうえで役立つ各種セミナーの開催」の順に高く、これらを参考に今後の企画立案や施設運営を心掛けていく必要がある。

4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務についての収支状況については、概ね予算のとおりにより執行されており良好である。また、前年度は若干の支出超過が見られたものの、今年度はその点も解消されている。

なお、支出科目ごとに見ると相談や修繕費において支出超過が見られるが、他事業の経費節減や暖冬による光熱水費の減少などにより、全体としては予算の範囲内に収まっている。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

協定書に定めた目標値において、「講座受講者の満足度」は上回る結果となったものの、「年間新規利用者年間400人以上」、「図書コーナーの図書貸出件数12,000冊以上」では目標値を下回る結果となっている。市民アンケートの「女性会館の認知・利用状況」や相談事業の年代別傾向から、若年利用者の増加に向けた効果的な情報発信が今後の課題である。

施設の管理運営全般に関しては、事業計画に従い良好に実施されている。利用者トークサロン等により、随時利用者からの声を反映させる等、指定管理者制度のメリットを十分に活かし、満足度の高い事業を展開している。

